

月が 私を 見ていた

ねむれずに
目を開けると

月が
わたしを
見ていた

三十八万キロのかなたから
わたしをめざしてきた
ひかりの粒子たちよ

わたしの枕もとを照らして
目をさませ
肩をあたためてくれた
粒子たちよ

気づかれずに
一直線に
ささやくように
わたしのもとに来てくれた
粒子たちよ

月よ
今日も
照らしつづけよ
ねむれない夜をすごす人たちの
枕もとを

いつの夜か
気づく
日まで